

海洋生物で 高知から世界を眺める

① 干潟ワンダーランド

宇佐の干潟で進化をひも解く

② 貝が空を飛んだ

ダーウィン「種の起源」の手がかりを掴む!

③ ホヤが誘う未知の領域

特異な体を遺伝子レベルで探る!

不思議を発見! 植物医学

〈植物健康基礎医学〉ラボ通信

のぞいてみよう 高知大の授業!!

〈人文学部〉まなびの時間

Kochi University's Student

キラ星★高知大生

高知大学ニュース

聞いてみよう! みんなのこえ

留学生 VOICE

高知大学 広報誌の愛称募集!!

新しくなった高知大学
広報誌の愛称を大募集!
抽選でプレゼントが当たる!
詳しくは裏表紙をチェック!

Information
裏表紙へGo!



土佐市宇佐にある海洋生物研究教育施設での実習風景

高知大学で開催するイベントをご紹介します。

イベントインフォメーション Event information

2012 Winter 冬号



日本一のミスキャンパスに!

「ミスオブミスキャンパスクイーンコンテスト2011」優勝!

平成23年12月17日に開催された日本の大学のミスキャンパスを決めるイベント「ミスオブミス キャンパスクイーンコンテスト2011」において、人文学部国際コミュニケーション学科の廣井佑果さんが、見事優勝しました。昨年の黒潮祭のミスコンで優勝し、ミスキャンパスの主催者から全国大会への誘いがありコンテストに出場することを決意。日本全国のミスキャンパス、69名の中からグランプリの栄冠を手にしミスキャンパスの女王になりました。

Miss campus



第2回高知大学 ホームカミングデーを開催しました!

卒業生と在校生が交流を深める特別な日!

11月12日、同窓会連合会と共催で、第2回ホームカミングデーを開催。岡豊・物部・朝倉の各会場でシンポジウムや記念講演を実施し、全会場で卒業生と学生の交流会が行われました。また同日の午後には「連携自治体は高知大学に何を求めるか?」をテーマにシンポジウムを開催し、地域住民の方々も参加して、活発な討論が行われました。

第2回高知大学ホームカミングデー 記念式典・シンポジウム



お問い合わせ先 皆様からのご意見・ご感想をお待ちしております。



高知大学広報戦略室

高知大学

検索

http://www.kochi-u.ac.jp/JA/

TEL.088-844-8643
FAX.088-844-8033
〒780-8520 高知市曙町2-5-1
E-mail:kh13@kochi-u.ac.jp

平成23年度
平成24年度
式典の
ご案内

卒業修了式
3月23日(金)
学部卒業式
場所 県民文化ホール(オレンジ)
時間 [入場開始] 10:20~

3月23日(金)
大学院修了式
場所 県民文化ホール(グリーン)
時間 [入場開始] 9:00~

入学式
4月3日(火)
学部入学式
場所 県民文化ホール(オレンジ)
時間 [入場開始] 10:20~

4月3日(火)
大学院入学式
場所 県民文化ホール(グリーン)
時間 [入場開始] 9:00~

高知大学 広報誌の愛称募集!!

コンセプトは「高知大学」と「地域」をつなぐ!!

高知大学を身近な存在として、本誌で幅広い方に感じて頂ける
分かりやすい名前を広く募集します!
本誌は年4回(1月、4月、7月、10月)の発行予定、県下の高校他、全域に配布しております。

〈応募資格〉どなたでもご応募できます。(複数応募可)
〈応募締切〉平成24年2月29日(水)迄
〈応募方法〉愛称、愛称の読み方、意味、応募者の氏名を
明記の上、下記のアドレスにご応募下さい。
広報戦略室: kh13@kochi-u.ac.jp

ご応募頂いた方
の中から抽選で
農学部後援会提供
フィールドサイエンスセンターの
お米5kg 5名様に
プレゼント!



※プレゼントの当選は発送を持って代えさせていただきます。
※個人情報本企画のみに使用させていただきます。

2月7日(火)~12日(日) 高知大学卒業制作展

入場料
無料

教育学部生涯教育課程芸術文化コース(美術)の卒業制作展です。本展覧会は、今年度で第11回をむかえます。
本展覧会では、西洋画・デザイン・彫刻・木工の各専攻分野から卒業生各自の研究テーマに沿って制作された作品が
出展されます。ぜひご覧ください。

場所 高知県立美術館 県民ギャラリー
時間 9:00~17:00(最終日は16:00まで)



ホヤが誘う未知の領域

特集3

特異な体を遺伝子レベルで探る

自然科学系 理学部門 教授

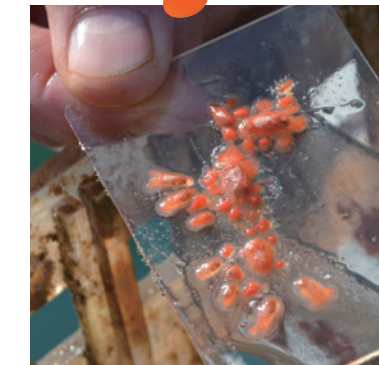
藤原 滋樹



ホヤとヒト、実はとても近い生き物

25000個の細胞が 進化の仕組みを ほのめかす

大学の理学部でホヤの研究をしています。藤原滋樹教授がこう話すと、多くの人はきょとんとするのだとか。動物だか植物だか判別しがたいような外見ですが、じつは人間と同じ脊索動物のホヤ。成長すると、岩や船の底に付着してまったく動かないのに、子ども時代はオタマジャクシのような姿をしている。そうである。そうである。そうである。



ミサキマメイタボヤ

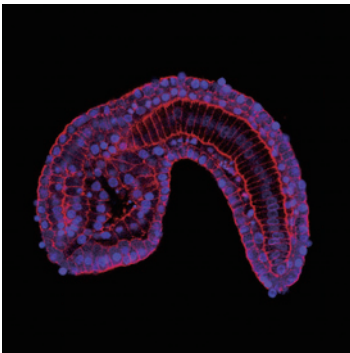
「長さ1ミリもない小さな体ですが、頭の部分にはちゃんと脳があり、脊索に沿って中枢神経も伸びています。光や水流を感じたり、尻尾を動かして泳いだり、いろいろなことができるんですよ。」このオタマジャクシには細胞が25000個程度しかないとのこと。人間の体は60兆ほどの細胞できているとされていますから、比べものにならない単純な構造。しかも、受精してからオタマジャクシの姿になるまで、わずか半日しかかからないそうです。「胚の発生や神経管の形成などを探るうえで、ホヤは最高の研究材料になります。私たちの研究によつて、ホヤの体づくりにレチノイン酸という物質が役立っていることがわかりました。無脊索動物ではあまりみられないことなので、この働きが脊索動物が進化した原動力の一つになったのではないかと考えられます。」

ホヤ【海鞘】

背骨はないが、哺乳類と同じ脊索動物で、意外に人間と近い間柄にある。体の構造は単純だが、近年では、元々は自由に泳げた生物が長い時間をかけて、いまのような姿に進化したのだと考えられている。動物としては7番目にゲノムの配列が解読された。藤原教授らは胚の発生の研究ではカタコウレイボヤ、出芽ではミサキマメイタボヤを材料にしている。



カタコウレイボヤ



ホヤの幼生時はオタマジャクシに似ている

ホヤが有する クローンを 作る能力とは？

ホヤには有性生殖をする一方、出芽で増える種類もいるとのこと。体の一部分が膨らみ、やがて切り離されて、新しいホヤになる。要するに、自分と同じクローンを作ることができるわけです。この不思議な能力も、藤原先生の重要な研究テーマです。

「人間も臓器の一部や皮膚などを再生することはできます。しかし、体の一部分から体全体を作り直すことはできません。なぜ、同じ脊索動物なのに、人間などにはできなくて、ホヤにはできるのか。その仕組みを知りたいくて、遺伝子の働きなどを調べています。」単純な構造、成長の速さなどから、ホヤは研究材料としてよく使われていますが、出芽に関する研究者はあまりいないそうです。さらに、遺伝子レベルでの研究となると、世界的にも数例しかないとか。それほどの先進的な研究が、藤原先生のもとで進められています。

高知大学のいかにで 養殖したホヤが 世界の研究を支える

藤原先生は研究材料のホヤを、土佐市宇佐の養殖いかにで育てています。「シャーレにくつついた小さな“ちびホヤ”を、シャーレごといかにに吊るすんですよ。それから1か月ほどで、よきよき生えたような状態になります。浦ノ内湾の適度に栄養豊富な水が向いているのか、成長するのがすごく速い。筑波大学などにいる共同研究者にも、ここで養殖したホヤを宅急便で送つてあげています。」

高知の海が世界のホヤ研究最前線を支えている。こう考えると、ちょっと誇らしく思えてきます。



自然科学系 理学部門 教授 藤原 滋樹 ふじわら しげき

京都大学理学部卒業、博士(理学)。専門は分子発生生物学。脊索動物の体の仕組みと進化のモデル動物としてホヤを研究。「答えが1つしかない自然の法則を追及するのが理学部です。利用の仕方を考えるのではなく、知ること自体が目的。これがサイエンスです。」



貝が空を飛んだ?



「前ページより続く」

どう考えても、分断されている、貝が中米を超えて交流したとしか考えられない。これは面白いぞ、とワクワクしました。「これまで誰も検証しようとしなかった仮説のもと、三浦先生らはデータを取り続けました。それらの遺伝子を解析することにより、約75万年前には太平洋から大西洋に、約7万年前には逆の経路で移動したことを証明したのです。

中米地峡の幅は、最も狭いところでも約70キロメートルあります。どのようにしてこの陸地を超えたのか、答えは進化生態学の偉大な先駆者、チャールズ・ダーウインの仮説にあるようにです。『ダーウインの著書『種の起源』には、貝や昆虫が鳥に運ばれる可能性が記されています。今回の研究は、その仮説を証明したわけではありませんが、支持する証拠の一つには十分なるでしょう。」



現在は貝が移動した後、異間でどのように繁殖したのか、というテーマで研究を続けています。並行して、高知の海ならではのイソギンチャクと共生藻の関係などについても研究を開始。「海に関する研究は本当に魅力があります。」三浦先生は熱を込めて語ってくれました。



総合科学系 複合領域科学部門 特任助教 三浦 収 みうら おさむ

東北大学理学部卒業、博士(生命科学)。オーストラリア熱帯研究所のポストドクなどを終え、平成27年から高知大学の特任助教として、寄生生物の進化と生態に関する研究が少なく、「新しい発見が期待でき、やりがい」は大きい。

高知大学拠点プロジェクト
「植物健康基礎医学」とは

持続可能な地球環境の実現や世界規模での食料需給の安定には、植物の健全な生育環境の構築や病害虫の予防などが不可欠です。「植物健康基礎医学」は、植物をそのライフサイクルの全ステージにおいて健全に育成させ、さらに残さずも利用することで、人間にとっても健全な生存環境をつくりだすことを理念としています。研究拠点は「地上部環境の改善」、「根圏環境の改善」、「生産物・残さの高度利用、高付加価値化」の3つの研究領域を構成し、「地上部環境」領域は地上部での感染・発生が問題となる病害・虫害を、「根圏環境」領域では、土壌病害、栄養障害、物質の吸収と転流等を取り上げます。



トバモウウイルス病

青枯病



もしかしたら、地球規模の食糧問題に一石を投じられるかもしれない…。そんな大きな可能性を持つ研究の可能性や魅力について話を聞きました。

目指しているのは
植物の総合病院

●**曳地康史** まず、「植物健康基礎医学」の言いだしっぺである金先生に、発案の理由を話してもらいましよう。

●**金哲史** 一番の理由は、何か面白いことをやりたかったからです。現在、研究は中央の大学で、地方大学は教育を、と役割分担がされているような風潮があります。しかし、たとえ田舎の大学であろうとも、面白い研究はできます。そこで、植物



研究室内で生育条件を管理された実験用植物



健康基礎医学という植物に関する研究を通して、世界に発信する研究ができるのではないかと思い、スタートしました。

●**渡邊唯** 本当にそんなことができるなんて、驚きです。

●**曳地** 高知の「農」の現場では、「あれ？これってユニークだな」と思うことがよくあります。そんな研究のネタが、実は高知には山ほどあって、それを学術的に解析できたら、ものすごい科学、サイエンスを高知か

ら発信できると考えています。

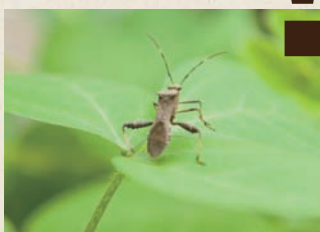
●**金** せっかく高知にいるわけだから、高知の「地の利」を活かすことも大切です。例えば、アオスジアゲハというクスノキに産卵する蝶の研究が日本やアメリカなどの大学で行われましたが、高知大学がいち早く成果を上げました。なぜかという、温かい高知では産卵回数も多く、他所よりも1.5倍から2倍は実験するチャンスがあったから。高知が温暖な気候であるからこそ、

植物を研究するなら誰よりも植物と仲良くならなきゃ。目の高さは草の背丈でね。

高知大学農学部
総合科学系生命環境医学部門
教授
ひきち やすみ
曳地 康史

プロフィール
京都大学農学部卒業、博士（農学）。植物病理学が専門で、植物はなぜ病気になるのか、微生物はなぜ植物を病気にするのかを、分子レベルで研究。座右の銘は「All for one, one for all」。

高知だから できる研究で 世界と勝負!!



研究用に飼育されている害虫のカメムシ



農学部3年
わたなべ 唯さん

●**曳地** プロジェクトでは、新たな人材の育成も使命の一つです。

●**金** 私個人の考えですが、教育とは「師の背中を見て育つ」ということではないでしょうか。先生が一生懸命実験している姿を見て、一緒に勉強したいと思う。先生が一生懸命実験している姿を見て、一緒に考えたいと思う。学生が自ら思い、進んでやるようになるこそ、本当の教育ではないかと思っています。

●**曳地** そうして対等の研究者に成長し、さらに僕らを越えていってほしい。このプロジェクトは世界のトップを目指す研究になると私たちは自負しています。高知大学から世界を目指すというワクワクする取り組みを、ぜひ学生も共有してほしいです。



私の背中を見て、育て！

●**渡邊** 先生方から世界に通用する研究をしていることを聞くとすごく刺激になります。



高知大学農学部
総合科学系生命環境医学部門
教授

ひきち 哲史
金 哲史

プロフィール
鹿児島大学水産学部卒業、博士（農学）。専門は化学生態学で、主に昆虫の行動を制御する生理活性物質を研究する。指導する研究室のモットーは、「明るく、楽しく、美しく」。

初の全身彫刻像の出品で初入賞!
第65回県展の彫刻部門において褒状を受賞!



【彫刻ゼミ】彫刻の専門教員として阿部鉄太郎講師が、2009年に着任。高知において若い世代の彫刻レベルの向上に期待の聲が寄せられている。

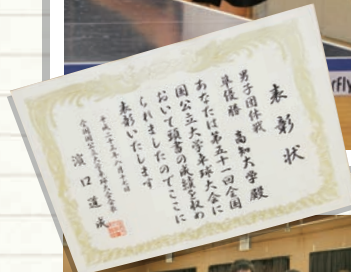
今年初めて全身像の立体彫刻を作りました。その作品「芽生え」で県展の褒状を受賞することができたのは、彫刻ゼミの阿部先生(P10)の影響がとても大きかったと思います。同じ教室内において日展や県展で入賞した先生の制作過程を間近に見、指導を受けられたことは大変勉強になりました、大きな刺激となりました。制作を行った2か月間は、入選を目標に夏休みの間ほぼ

高知大学の彫刻ゼミは充実した制作現場!

主将として選手として活躍
高知大学男子卓球部
全国国公立大学卓球大会
団体戦2位入賞!

キラ星 高知大生

学内外でキラッと光る高知大生をピックアップ!



自主練習が結果に繋がるやる気の秘訣!

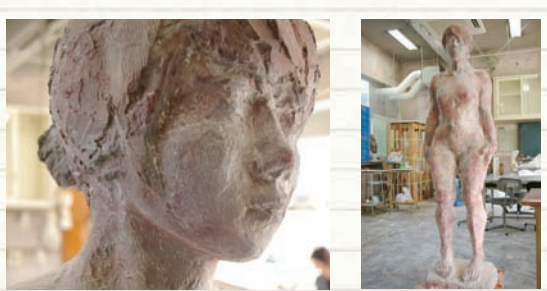
今年、第51回全国国公立大学卓球大会において、高知大

学の男子および女子が揃って団体戦2位に入賞しました。そこで男子部長に強さの秘訣を伺いました。
週4日の規定の練習に加えて、自主練習を行い、ほとんど毎日卓球をしています。レギュラーを目指すメンバーの熱意に触発され、積極的な対抗意識を持ち、積極的に練習に取り組み姿勢が今回の成績に繋がったのだと思います。
学業との両立や主将としてチームをまとめる際に、意見の集約で悩む大変さもありましたが、皆で取り組み臨

んだ本大会で成果を出せたこと、特に個人ではなく団体で得られた結果が何より嬉しかったです。
今後の目標は、練習に参加している時間を大切に、目一杯張り、次のインカレで、予選リーグを突破することです。



▲褒状を受賞した芽生え



教育学部
芸術文化コース3年
片岡 孝太さん

高知県出身。彫刻を長く続けていくことでしか見つからないものに会いたい。高校の美術教師を目指している。



教育学部
学校教育教員養成課程2年
西内 匠さん

高知県出身。高校教師を目指している。「母校で教壇に立ち、数学を教えながら卓球部の顧問として活躍できれば…」と夢を語る。

PICK UP LECTURE
まなびの時間
高知大学の講義・研究



育む知識は 人生の財産
人文学部
国際社会コミュニケーション学科

体験を通して 育まれる人間性

世界の歴史を学ぶ時、戦争、政変といった大きな出来事に目を奪われてしまいがちです。しかし、時代ごとにさまざまな文化が興り、優れた芸術作品が人々の生活を彩ってきた。そんな、時代の息吹が感じられる文化の歴史をたどるのが、「英米文化史」や「英米文化史特講」の講義です。講義を担当する関良子先生は、「19世紀の思想家であるウィリアム・モリスは『歴史は王様や將軍を記録する。なぜなら彼らは破壊したからである。文化は人民を記録する。なぜなら彼らは創造をしたからである』と言っています。文化史とはまさにそういうものなのです。」と話します。
英米文化史では、欧米にどのような文化が誕生したのかを、歴史の流れに沿って通史的に学習します。さ



▲アーサー王伝説に関する書籍



▲人文学部 ゼミ風景

らに隔年で開講する英米文化史特講では、中世イギリスで流行したアーサー王伝説が現代にいたるまでどのように変遷したのかを学びます。
「高校の歴史の授業ではほとんど触れられない分野だけに、いかにも大学らしい講義のひとつと言えるでしょう。大学の講義で身につけた知識は、人生の財産になると思います。」

原書を読み その魅力に触れる

一方、関先生が主催するゼミのテーマは、「読む」ことの「文化」を考える。「翻訳」「語訳」「語り直し」をキーワードに、英米の物語が、翻訳や映画化などの翻案でどのように文化として変容していくかを分析します。
前期ではクラス全体で1つの文献を原書で読み、ディスカッションを通して分析方法などを学びます。「平成23年度は、メアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』を取り上げました。フランケン、イコール怪物と誤解されるなど、大きく異なるイ

メージが持たれた作品で、学生たちも初めて知ることが多く、とても驚いていました。こんな発見ができるのも、原書を読むおもしろさのひとつでしょう。」

後期は、各自が興味のあるテーマを取り上げて、分析したものを発表し、プレゼンテーションや論文の書き方などを学びます。「ピーターパン」や「オズの魔法使い」、あるいは宮澤賢治作品における『オノマトペ』についてなど、さまざまなテーマに学生たちは取り組んでいます。
「英語で昔の物語を読むというのは大変そうですが、実は15世紀には現在の英語に近い文法が確立しているので、古典といえども意外と読みやすいこともあります。日本語の古文よりも簡単かもしれません。原書を読むことで、英米文学の新しいおもしろさに触れることができますよ。」と、関先生は魅力を語ります。

講師に聞きました!

PROFILE

人文社会科学系
人文社会科学部 講師
関 良子

兵庫県出身。同志社大学文学部卒業、大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。博士(文学)。19世紀ヴィクトリア朝時代の詩と当時の雑誌文化を研究。平成21年10月より現職。



第43回日展 特選

阿部鉄太郎「第65回県展」で2つの賞を受賞する

彫刻を通して作家を育てることが高知の財産になる



高知大学教育学部 講師
阿部 鉄太郎

岡山大学の大学院修了後、岡山県や兵庫県などで美術教員として勤務。2009年に高知大学へ着任。「第65回県展」で2つの賞を受賞する。また、「第43回日展」彫刻の部で特選を受賞。2度の受賞で今後は、日展無鑑査となる。



平成23年の日展で特選を受賞した作品「黒潮11」の表現は、高知に住んだ事で生まれたいものです。台風の時の強烈な波の生命感や勢いとよさこいを踊るはちきんの女性からインスピレーションを感じて制作しました。彫刻の魅力は、色々な角度で人物の表現と対峙し制作が行えることです。ゼミでは、私が彫刻を行う姿を実際に見てもらおうと、学生に何かを感じてもらえる環境づくりを大切に考えています。新しい物に比較的関心の高い高知の風土の中で、物づくりの基本となるしっかりとした中身・本質を捉えた彫刻を通して作家を育てることが高知の財産になると思っています。今後はより良い作品を作るだけでなく益々指導者としての覚悟が求められるでしょうね。



◀日展・彫刻特選受賞作品「黒潮11」

全日本学生エアロビック選手権大会 男子フライト部門優勝!!

手に入れた 全国ユースフライト大会への切符!

平成23年11月27日、東京八王子で開催された第11回全日本学生エアロビック選手権大会において、理学部4年モダンダンス部・箕浦 健さんが(男子フライト部門)優勝されました。この結果、平成24年1月21日開催、第2回全国ユースフライト・エアロビック選手権大会への出場権を獲得しました。



優勝された理学部4年箕浦 健さん▶

日本下水道協会 第48回下水道研究発表会 口頭発表セッション優秀賞受賞

社会人参加の大会において 名誉ある受賞!

昭和39年から毎年開催されている下水道界最大の研究発表会において大学院総合人間自然科学研究科農学専攻2年の田中一輝さんが、「実規模高負荷二点DO制御OD法における生物学的リン除去の年間変動特性」と題する発表を行い、優秀賞を受賞されました。



優秀賞を受賞された総合人間自然科学研究科2年田中一輝さん▶

エコチルの お知らせ!



イベント予定
■日付 2月25日(土)
■場所 牧野植物園
詳細はエコチルホームページをご覧ください。

- エコチル調査コールセンター/TEL.0120-535-252(9時~21時)
- 環境省のエコチルHP/www.env.go.jp/chemi/ceh/index.html
- 高知ユニットセンター/TEL.088-880-2173(土・日・祝日のぞく9時~17時)
http://kochi-ecochil.jp

子どもの健康と環境に関する全国調査
こごちエコチル調査
国際シンポジウム開催
参加者は1500人!!!

平成23年1月より環境省主体で始まった「エコチル調査」。環境中の物質の子どもの影響を解明するため、全国15か所、10万組の親子にご協力いただいています。高知大学は、4国では唯一の拠点として、高知市・南国市・四万十市・梶原町にお住まいの妊婦さんを対象に3年間で5000人の参加をお願いしています。

開始10か月で参加者1500人と大変順調な進捗に国内外からの視察も増え、11月には、自治医大やアメリカでエコチルと同じような調査(ナショナル・チルドレンズ・スタディ)の先行調査を実施しているユタ大学より研究者を迎え、出生コホートに関する国際シンポジウムも開催されました。今後も未来の子どものため、「エコチル調査」にご協力をお願いします。

留学生の高知大ライフ



高知と中国の 架け橋になりたい!

人文学部
社会経済学科4年
洪業さん(中国)
コウ ギョウ



ター アイ ガオ ジュ
大愛高知
(高知 大好き)

進学先を高知大学に決めた理由は、高知の人が、温かく優しくだからです。

在学中、アドバイザーの先生がとても熱心で、どんな質問にも真剣に答えてくれました。また、4年生になって初めて黒潮祭に参加し、留学生同士で餃子や海老せんべいのお店を出して、地域の方々たくさん交流ができたことがとても楽しく新鮮でした。

留学は、色々大変だったけど若い頃にしか体験できない事も多く、この体験が今後の人生においてかけがえのないものになりました。

卒業後は、大好きな高知で働くこと、そして高知と母国中国との架け橋になる仕事に就きたいと考えていました。そこで高知大学が日本企業への就職を希望する留学生を支援する目的で実施している『アジア人財資金構想「高知実践留学生育成事業」』に参加し、ビジネス日本語やビジネスマナーを学びました。就職は中国に支社のある高知の企業から内定を頂きました。「仕事の流れを覚えて、早く一人前になりたいですね。」



PROFILE

中国・河南省洛陽出身。日本語学校に2年間通い、高知大学に入学。「中国語の家庭教師をしたことで知り合った方達に仲良くしてもらっています。」

平成24年度入試案内

■推薦入試II

学部	試験日	合格発表
農学部	1/29(日)	2/7(火)
教育学部	2/4(土)	2/7(火)
土佐さきがけ (グリーンサイエンス)	2/4(土)	2/7(火)

■一般入試

	試験日	合格発表
前期日程試験	2/25(土)・26(日)	3/7(水)
後期日程試験	3/12(月)	3/22(木)

■入試に関するお問い合わせ先(ご意見・ご質問にお応えします。)

学務部入試課 TEL.088-844-8153
E-mail nys-web@kochi-u.ac.jp

■入試に関する最新情報(随時更新中)

http://www.kochi-u.ac.jp/nyusi/index.html

■大学案内・選抜要項等の資料をパソコン・携帯電話からテレメール請求できます。

インターネットの場合(携帯電話・パソコン)

http://telemail.jp

携帯電話・パソコンと共有アドレスです。(iモード・EZweb・Yahoo!ケータイ)

国内初! 臍(さい)帯血で脳性マヒの臨床研究



さい帯血を使った
脳性マヒの子どもへの治療

出産時にへその緒からさい帯血を採取

冷凍保存

早産などにより脳性マヒに陥った場合

さい帯血の一部を投与

筋力や運動能力の回復を目指す

この効果が証明されることでアルツハイマー病やパーキンソン病など、多様な再生医療への発展が期待されています。

平成23年11月29日に高知大学医学部附属先端医療推進センター「臍帯血幹細胞研究班班長 前田長正准教授が取り組む臨床研究についての記者会見を行いました。早産などにより脳性マヒに陥った子どもに対して、出産時にへその緒から採った自分の臍帯血の一部を投与することで、筋力や運動能力の回復を目指す臨床研究を今年の春から開始すると発表しました。これから5年で10例の実施を目指す計画を、先端医療推進センターが中心となりプロジェクトが進行していきます。

様々な再生医療への
発展に期待

